

補助事業番号 2021P-275
補助事業名 2021年度 ギャンブル等依存症に係る研究 補助事業
補助事業者名 名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学分野 西山毅

1 研究の概要

本研究では岩手県の住民9,099人に対し郵送調査を行い、5,440人から回答が得られた。すでに我々がもつ調査データと合わせ、計10,471人分の質問紙データを対象に、ギャンブル障害の発症リスク要因について、特に心理特性に焦点を当てた研究を行った。

2 研究の目的と背景

ギャンブル障害 (Gambling Disorder, GD) は、有病率が数%に上り、社会的コストは大きい。しかし、これまでにわかっているGDのリスク因子は、性別や年齢、就業状況、婚姻状況、学力、収入、メンタルヘルス、薬物使用などの個人に関わる因子と、好きなだけ継続できるタイプのギャンブル形式がわかっている。ここで個人のリスク因子に焦点を当てると、一口に薬物使用と言っても、飲酒や喫煙から各種ドラッグと幅広い薬物が含まれる。同様に、メンタルヘルスと言っても、うつ病や不安症、注意欠如・多動症などの精神疾患から、外向性や衝動性、リスク傾向 (リスクを取る傾向)、刺激追求性、非行などパーソナリティや心理特性に至るまで幅広いものが含まれる。これまで、こういったリスク因子については個別に調べられてきたが、これら全てが互いにどのような関係にあるのかについて網羅的に調べた研究はなかった。そこで我々は、計16種類の心理特性がGD発症にどのように影響を及ぼすか、メンタルヘルス以外の個人因子も含めその全体像を明らかにすることを本研究で目指した。これによって、GDを予防・改善するために介入すべき要因を特定可能になる。

3 研究内容

(1) ギャンブル障害のリスク要因の網羅的研究 (URL)

<https://sites.google.com/view/psychogenomics/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

計10,471人分の質問紙データの解析により、ギャンブル障害は、幅広い心理特性の中で、注意欠如・多動性および薬物依存性から生じることが明らかになった。この結果を踏まえて、ギャンブル障害予防のための提案を行った。

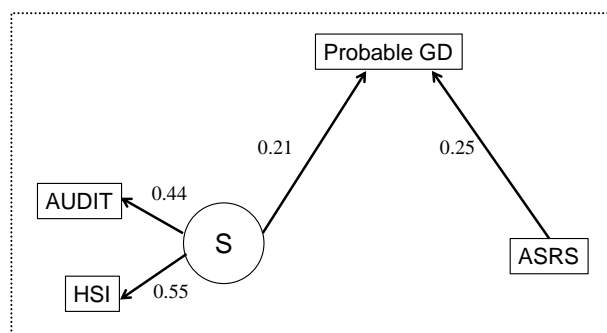


図. 最終的に選ばれたモデル。
AUDIT (アルコール依存性) と HSI (ニコチン依存性) は共通する薬物依存性因子 S から生じ、probable GA は S と ASRS (注意欠如・多動性) により生じるといモデル。矢印の横に記した数値は回帰係数。

4 予想される事業実施効果

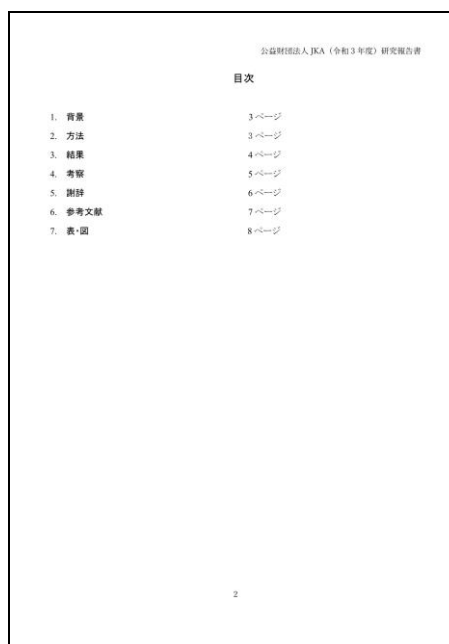
今回の我々の研究結果を踏まえ、ギャンブル障害の発症メカニズムの詳細についての探究が進展することが期待される。このことは、より効果的なギャンブル障害の予防・治療法の開発につながる。

5 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

研究成果報告書

<https://sites.google.com/view/psychogenomics/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし

6 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名： 名古屋市立大学大学院 医学研究科(イガクケンキュウカ)

住 所： 〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

担 当 者： 准教授 西山毅 (ニシヤマ タケシ)

担 当 部 署： 公衆衛生学分野 (コウシュウエイセイガクブンヤ)

E - m a i l： p-gen@umin.ac.jp

U R L：

<https://sites.google.com/view/psychogenomics/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>